

とちぶん会報

No.60

2020年7月1日

栃木県文芸家協会 発行人 小林 守城
事務局／栃木県下都賀郡壬生町中央町16-18 三上博史 方
〒321-0226 TEL090-9318-2492

令和2年度総会を9月27日(日)に変更して開催します

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえて、5月17日(日)に開催することとなっていた令和2年度総会は、9月27日(日)へ延期され、同日の秋季講演会と併せて開催することとなりました(4月16日開催の役員会において決定)。ここに改めて会員へ通知いたします。

栃木県文芸家協会会員 各位

栃木県文芸家協会会長 小林 守城

栃木県文芸家協会規約第11条の規定に基づき、令和2年度栃木県文芸家協会総会を以下のとおり開催いたします。会員においては、万障お繰り合わせの上ご出席くださるようご案内いたします。

1. 日 時 令和2年9月27日(日) 午後1時30分～2時30分
2. 場 所 ホテル丸治[宇都宮市泉町1-22/TEL 028-621-2211]
3. 議 題 (1) 令和元年度栃木県文芸家協会事業報告について
(2) 令和元年度栃木県文芸家協会収支決算報告について
(3) 年会費の改定について
(4) 令和2年度栃木県文芸家協会事業計画について
(5) 令和2年度栃木県文芸家協会収支予算について
(6) 任期満了に伴う役員改選について
(7) その他(秋季講演会等)

※ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえて総会終了後の懇親会を開催せず、秋季講演会を開催します。

※ 同封した出欠の返信ハガキを9月18日(金)までに事務局あて必ず郵送してください。

秋季講演会の開催が決定・講師は村山精二先生

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、例年夏季に開催していた講演会は、秋季講演会として9月27日(日)(総会終了後)に開催することとなりました。講師に日本ペンクラブ理事の村山精二先生をお迎えして以下の内容で行います。会員の積極的な参加をお願いいたします。

- 日 時 令和2年9月27日(日) 午後2時30分～4時
- 会 場 ホテル丸治[宇都宮市泉町1-22/TEL 028-621-2211]
- 講 師 村山 精二先生
- 演 題 「日本文学を世界に発信…電子文藝館のこと」

* 講師紹介／1949年、北海道生まれ。神奈川県南足柄市在住。

日本ペンクラブ、日本文藝家協会、日本詩人クラブ、横浜詩人会等会員。

1968年～2006年、富士フィルム勤務。

1999年～2016年、日本詩人クラブ、横浜詩人会等理事。

1999年～現在、日本ペンクラブ電子文藝館委員会委員長等。

2017年～現在、日本ペンクラブ理事。

ホームページ：<http://gomame.o.oo7.jp/>

※ 講演会終了後の懇親会は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえて開催しません。

- ※ 同封した出欠の返信ハガキを9月18日(金)までに事務局あて必ず郵送してください。
- ※ 会員の友人・知人で講演会・懇親会へ参加したい方は、会員から事務局に申し出てください。

第1回編集会議を開催・『朝明』第9号発刊へ

6月18日(木)午後1時30分から、ホテル・ザ・セントレ宇都宮において朝明第9号発行に係る第1回編集会議を開催しました。

まず、資料に基づいて第9号の原稿提出要領が審議されました。要領の内容は前回とほぼ同じものとなりました。次に、特集テーマについての活発な意見交換がなされ「コロナで考えたこと」に決まりました。前号と同様に冊子体の発行の他に電子化(PDF)も回り、第10号の発行後(令和3年12月)、協会ホームページに全文アップロードすることも改めて確認されました。

作品の提出期限は9月末日です。別添要領に基づいて作成・提出してください。

詩部門理事・会計担当の綾部健二さんが逝去されました

詩部門理事で長く会計も担当されていた綾部健二さんが3月9日急逝されました。享年68歳。

綾部さんは、平成23年に当協会へ入会し、25年から会計を担当されました。27年からは詩部門の理事に就任し、また朝明編集委員として尽力されました。詩のならず小説・随筆とジャンルを幅広く活躍され、栃木県芸術祭、下野新聞「新春文芸」等でいくつもの輝かしい受賞を経験されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

『創作への志』 会員通信 No.17 随筆部門 古谷 耀子

八年前、地域の生涯学習センターが小島延介先生のご指導による『随筆・エッセイを書く実践講座』を企画して、「広報うつのみや」の誌上で受講生を募った。その時期、私は長年勤務した会社を退職して新たな目標を探し始めた矢先、さっそく申し込んだ。

講座が始まった日、教室に並んでいた木製の長机の上にノートを広げると、学生時代に戻ったかのように懐かしさがこみ上げ、思わず背筋を伸ばして鉛筆を握った。自分の想いを綴ることは、会社で型通りの文章をパソコンに打ち込むのと違って、一字一句が新鮮で受講を重ねるごとにグングン引き込まれていった。

後期高齢となった今、余生は随筆を友として日々のあるがままを書き続けたい。

§ 寄贈書籍の紹介 §

- 「訪問者」 福田三男著／発行所・しもつけの心出版／発行日・2020年2月15日[著者からの寄贈]
 - ・天下三大仇討のひとつで、赤穂浪士討ち入りのモデルになった「浄瑠璃坂の仇討」。江戸初期、宇都宮藩内で起きた仇討事件をもとにしている。構想10年、執筆1年。244ページ
- 「詩集 卒業電車」 神山暁美著／発行・オフ出版／発行日・2020年4月30日[著者からの寄贈]
 - ・1992年に創刊された詩誌「こだま」に、2002年秋から2018年秋の終刊まで載せた25編の詩すべてをまとめたものである。著者にとっては6冊目の詩集となる。48ページ

§ 新会員紹介 §

- ・短歌部門 増田 律子[足利市]
- ・小説部門 嶋 均三[那須塩原市]

* ∞ * 事務局通信 * ∞ *

新型コロナウイルスの感染が広まって、いつの間にか世界的な拡大になってしまいました。感染者数の多さも驚くべきものですが、経済的には世界恐慌以上の不況に襲われています。わずか半年前には全く想像できなかったことが起こってしまったのです。感染の怖さと経済的な打撃が今なお新聞などを賑わせていますが、「文芸に何が出来るか、何が出来ないか」について改めて考える時間を与えられた気がします。何とか頑張りたいという願い、もう元に戻れないのだという諦め、この二つの間を人類は振り子のように行ったり来たりしているのが現状でしょうか。それはいつまで続くのでしょうか。(三上)